

大会名称：令和3年度 第51回関東中学校バスケットボール大会

開催場所：ひたちなか市総合運動公園体育館

Gコート

試合区分：男子

3回戦

期 日：2021(R3)年8月10日(火)

クルーチーフ

加藤 暁生

(指名)

開始時間：16:45

1st アシスタント

小澤 朋克

(群馬)

終了時間：18:05

2nd アシスタント

佐藤 賢

(茨城)

前橋五		○	22 6 24 28					●	鬼怒		66	14 18 14 20				
(群馬県)			-1st-	-2nd-	-3rd-	-4th-	-OT1-		-OT2-	-OT3-		(栃木県)				
NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	
4	*	丸山 颯太	18	0	7	4	1	4	*	西村 月冴	44	2	17	4	4	
5	*	東 拓斗	12	0	6	0	3	5	*	柏次 一慶	-	-	-	-	-	
6	*	山口 隼英	22	2	8	0	0	6		三井 賢太	-	-	-	-	-	
7	*	平出 千紜	2	0	1	0	5	7		引地 恵太	-	-	-	-	-	
8	*	デッドマン 晃汰	8	0	4	0	2	8	*	國見 琉斗	2	0	0	2	5	
9		北野 快	-	-	-	-	-	9		櫻田 峻太郎	-	-	-	-	-	
10		原田 晴哉	-	-	-	-	-	10		張替 埜煌	-	-	-	-	-	
11		早川 侑里	-	-	-	-	-	11		藤田 涼	-	-	-	-	-	
12		森田 悠月	18	0	9	0	2	12		笠原 拓真	-	-	-	-	-	
13		齊藤 知	-	-	-	-	-	13		福島 玲音	-	-	-	-	-	
14		鈴木 洋之介	-	-	-	-	-	14	*	須永 玲音	8	0	4	0	0	
15		沓澤 志図真	-	-	-	-	-	15	*	平塚 好誠	2	0	1	0	0	
								16		本田 翔斗	10	0	5	0	2	
								17		牧戸 佑磨	-	-	-	-	-	
								18		橋本 祐杜	-	-	-	-	-	
コーチ 松野 佑哉								コーチ 岡 龍哉								
A・コーチ 宮崎 徹								A・コーチ 関谷 範子								
合計			80	2	35	4	13	合計			66	2	27	6	11	

S:スターター PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファール

男子3回戦、前橋五中対鬼怒中。鬼怒中#15平塚のドライブインで先制。すかさず前橋五中は#5東のオフンスリバウンドからのゴール下、#6山口のドライブインで反撃。前橋五中交代で入った#12森田がエンドスローからのタップシュートを華麗に決めると、立て続けに#5東がジャンパーを沈める。13-4と点差が11点になったところで、鬼怒中はたまたまタイムアウト。タイムアウト後、鬼怒中は#4西村のアイソレーションで応戦。リードしている前橋五中は#6山口のクラッチシュートや3P、巧みなアシストで追撃を許さず、22-14と前橋五中リードで第1Q終了。第2Q、鬼怒中#4西村のクラッチシュート、バスケットカウントからのボーナススローも確実に決め、24-21と点差を3点に縮める。開始4分、鬼怒中#7引地のターンオーバーから#4西村がバスケットカウントを決め、24-26と逆転に成功。立て続けに鬼怒中は#4西村のアイソレーションで得点。第2Q開始5分、ノーゴールの前橋五中としては苦しい展開となる。第3Q残り2分、鬼怒中のミスを見逃さなかった前橋五中#12森田はワンマン速攻で第2Qチーム初得点。さらに、前橋五中#7平出がディフェンスで奮闘し、鬼怒中#4からチャージングをもらう。前橋五中#4丸山が執念でゴール下をねじ込み、32-28と鬼怒中4点リードで前半戦終了。第3Q、先に流れをつかみたい前橋五中は、#7平出が鬼怒中#4西村から2本目のテイクチャージ。しかし、鬼怒中#4西村は落ち着いて3Pを沈め、流れを渡さない。前橋五中#12森田の連続得点で38-41になったところで、鬼怒中タイムアウト。タイムアウト後、前橋五中#8デッドマンのファストブレイク、#5東のドライブイン、さらに、#4丸山のバスケットカウントが決まり、一気に逆転に成功。第3Q終盤に流れをつかんだ前橋五中が52-46と6点リードし勝負は第4Qへ。第3Qでの流れのまま前橋五中が押切り、84-62で勝利した。前橋五中はドライブインからの合わせがよく決まり、オフンスにおいてバランスの取れた良いチームだった。さらに、前橋五中#7平出はディフェンス面で大きく貢献し、終了間際5ファールの退場となったが、鬼怒中のスコアラー#4西村にプレッシャーをかけ続けたことは賞賛に値する。